

北九州市環境基本計画進捗評価報告(平成27年度実績)の概要について

差替え

◆ 総合評価の状況

(数値は事業数)

項目	事業数	A:積極的推進	B:一部見直し	C・D
政策目標				
市民環境力の発展	21	17 (81.0%)	4 (19.0%)	0
低炭素社会づくり	18	12 (66.7%)	6 (33.3%)	0
循環型社会づくり	10	10 (100%)	0	0
生物多様性保全	11	11 (100%)	0	0
合計	60	50 (83.3%)	10 (16.7%)	0

ポイント

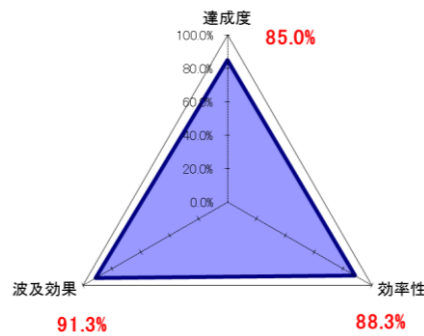
○「A:積極的推進」と「B:一部見直し」のみで、「C:抜本的見直し」、「D:廃止・休止」なし
 ○「A」評価が全体の8割を超えており、環境施策全般として順調に推進

◆ 評価項目・政策目標に対する評価

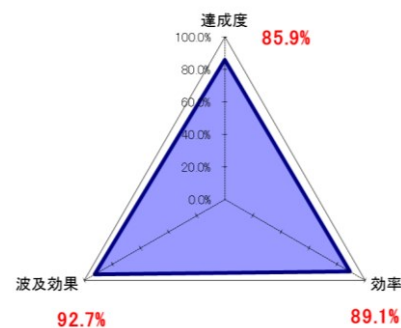
評価項目	達成度	波及効果	効率性	総合評価
政策目標				
市民環境力の発展	82.1%(85.7%)	92.9%(92.9%)	89.3%(88.1%)	87.5%(88.6%)
低炭素社会づくり	88.9%(86.3%)	84.7%(88.8%)	80.6%(87.5%)	85.1%(87.4%)
循環型社会づくり	85.0%(86.1%)	100%(100%)	97.5%(100%)	93.3%(94.4%)
生物多様性保全	84.1%(85.4%)	90.9%(93.8%)	90.9%(85.4%)	88.2%(87.9%)
合計	85.0%(85.9%)	91.3%(92.7%)	88.3%(89.1%)	87.9%(88.9%)

※《参考》()内は、前年度(H26年度)の数値です。

27年度 総合評価:87.9%



26年度 総合評価:88.9%



○ 評価項目別の評価結果のポイント

評価項目	ポイント	備考
達成度	前年度からやや減少(85.9%→85.0%)	若干減少したものの、前年度に引き続き、戦略プロジェクトの各目標を比較的高いレベルで達成している。
波及効果	91.3%と最も高く、前年度(92.7%)に引き続き高い水準	戦略プロジェクト等の取組を通じて、市民やNPO、企業、大学等の積極的な環境活動の広がりにつながってきている。
効率性	前年度からやや減少(89.1%→88.3%)	若干減少したものの、前年度に引き続き、まち美化や植樹活動など市民、NPO、ボランティア等と協働して事業を行い、行政コストの削減を図っている。

○ 政策目標別の評価結果のポイント

政策目標	ポイント	備考
市民環境力の持続的な発展	達成度は若干減少したものの、効率性が前年度より向上	エコライフステージや、環境首都検定、まち美化啓発事業など、官民一体となった様々な環境への取組を推進していることが要因であると考えられる。 【進捗指標の一例】 環境首都検定受検者数 H26:2,424人→H27:2,774人
低炭素社会づくりの推進	85.1%と前年度に引き続き比較的高い評価	他都市に先駆けて低炭素社会づくりに取り組む環境モデル都市のフォローアップ結果(国の評価)でも、6年連続で最高評価を受けている。 【進捗指標の一例】 公共施設省エネ創エネ事業における太陽光発電設備導入量 H26:累計4,670kw→H27:累計4,786.6kw
循環型社会づくりの推進	93.3%と前年度に引き続き高い評価	直近の市政評価で、「ごみの適正処理とリサイクル」が、2年連続2位と、依然として市民からの評価が高い。 【進捗指標の一例】 市民一人1日あたりの家庭ごみ量 H26:495g→H27:488g
生物多様性保全の推進と快適な生活環境の確保	88.2%と前年度と同水準	直近の市政評価で、「大気・騒音・水質などの環境保全」は、前回の9位から7位に上がっているものの、微小粒子状物質(PM2.5)などによる大気汚染をはじめ、環境保全に対する市民の不安が依然高いと考えられるため、引き続き環境保全に対する着実な取り組みが必要。 【進捗指標の一例】 植樹本数(市内計) H26:累計約62.5万本→H27:累計約67万本

【参考】評価の採点方法

○戦略プロジェクトごとに、3つの評価項目(達成度、波及効果、効率性)について、4段階で評価し、各項目に沿って点数化された結果をもとに、総合評価を実施(点数化は以下のとおり)

【採点基準】

	A	B	C	D
達成度	目標を高いレベルで達成している。	目標をほぼ達成している。	目標は達成していない。	目標にはるか及ばない。
波及効果	環境改善に寄与し、かつ地域社会・市民・企業などに好影響を与え、事業継続により、更なる発展が見込める。	環境改善や社会的な好影響がある程度認められ、事業継続により、今後の発展を見込める。	環境改善や社会的な好影響があまり認められないが、事業継続について改善の余地がある。	環境改善や社会的な好影響が認められず、事業継続による今後の発展が見込めない。
効率性	効率性(事業効果と事業費との相関から見た適正さ、受益者負担や収益の創出などによる行政コスト削減への貢献度合いなど)が高い。	効率性(同左)は適当であると認められる。	改善の余地がある。	抜本的な見直しが必要である。

◆配点方法:達成度は4点満点、波及効果、効率性は3点満点で採点

【達成度】(4点満点) A→4点、B→3点、C→2点、D→1点

【波及効果・効率性】(3点満点) A→3点、B→2.25点、C→1.5点、D→0.75点

◆戦略プロジェクトの総合評価 :3つの評価項目に沿って点数化された結果を基に、総合評価

(A:積極的推進:8.25点以上 B:一部見直し:6点以上~8.25点未満 C:抜本的見直し:4点以上~6点未満 D:廃止及び休止:4点未満)